

## デザイン塾：「タイムアクシス・デザインの 枠組みづくりに向けて」

平成 28 年 7 月 8 日(金)、慶應義塾大学矢上キャンパス 14 棟を会場として、「デザイン塾：タイムアクシスデザインの枠組みづくりに向けて」が開催されました。本活動は、日本機械学会 タイムアクシスデザイン研究会、日本デザイン学会 タイムアクシスデザイン研究部会、日本設計工学会 タイムアクシスデザインに関する研究調査分科会の共催により行われました。本塾は、「タイムアクシスデザインに関する講演」(第 1 部)、「タイムアクシスデザインの枠組みに関する座談会」(第 2 部)、の 2 部構成で開催されました。

第 1 部においては、慶應義塾大学加藤健郎専任講師の司会で、慶應義塾大学の松岡教授、武蔵野美術大学の小林教授、千葉工業大学の佐藤教授による講演がなされました。松岡教授からは、「タイムアクシスデザインへの誘い」というタイトルで、タイムアクシスデザインの概要や重要性などについて説明がなされました。小林教授からは、「タイムアクシスデザインへの期待」というタイトルで、いくつかのデザイン作品を例に、意味の時間変化やそれによる価値の成長などについて説明がなされました。佐藤教授からは、「デザイン評価の時間軸と普遍性」というタイトルで、グッドデザイン賞の評価における時間軸の概念の必要性や重要性について説明がなされました。

第 2 部においては、パネルディスカッション形式で、東京大学の梅田教授、千葉大学の寺内教授、首都大学東京の下村教授、慶應義塾大学の西村教授、イリノイ工科大学の佐藤教授の 5 件の講演がなされました。梅田教授からは「タイムアクシスデザインの枠組み作りに向けてどう切り込んで行くか？」寺内教授からは「材料に着目した時間に伴う質感変化の試み」下村教授からは「製品サービスシステムのタイムアクシスデザイン」西村教授からは「System of Systems アーキテクチャの進化に対応したマネジメント」佐藤教授からは「時間を通してデザインを考える」というタイトルで、タイムアクシスデザインについての説明、事例紹介がなされ、講演後に、会場からは多くの質問があがり、活発な議論が行われました。

その後、タイムアクシスデザインやデザイン科学に関する研究や作品(全 6 件)のポスター発表と並行して懇親会も開催され、盛況のうちに終了いたしました。



松岡由幸教授による講演の様子



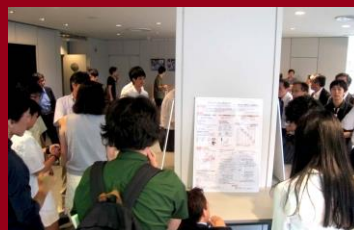
小林昭世教授による講演の様子



佐藤弘喜教授による講演の様子



ポスターセッションの様子



ポスター発表&懇親会の様子